

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	大分県		市町村名	大分市		地区名	大友氏遺跡歴史公園周辺地区			面積	212.5ha		
交付期間	令和3年度～令和7年度		事後評価実施時期	令和7年度		交付対象事業費	435.0百万円	国費率	0.50				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名											
		基幹事業	地域生活基盤施設 広場(大友氏遺跡歴史公園基盤整備)、地域生活基盤施設 情報板(大友氏遺跡周辺史跡案内サイン整備)										
		提案事業	地域創造支援事業(大友氏遺跡国史跡指定20周年記念イベント、大友氏遺跡歴史体験事業、歴史文化まちの魅力向上事業)、事業活用調査(事業効果分析調査)										
	当初計画から削除した事業	事業名					削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		基幹事業	地域生活基盤施設 広場(大友氏遺跡多目的広場整備)					土地の公有化が遅れ、計画期間内での整備が困難のため。			影響なし		
	提案事業	地域創造支援事業(地域資源活用人材育成事業)					歴史文化施設の供用開始が遅れたことに伴い、本育成事業の開始時期が変更になったため。			影響なし			
	新たに追加した事業	基幹事業	なし					－			－		
		提案事業	なし					－			－		
交付期間の変更	当初変更	令和3年度～令和7年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		－							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値					
	指標1	大友氏遺跡への来場者数	人/年	18,820人	R1	24,000人	R7		39,927人(R6)	○	あり	大友氏遺跡歴史公園の整備が進み、庭園が公開されたことで、来場者数は大きく増加した。さらに、事業期間中に実施された各種イベント等の効果により、一定の認知と関心を得ることができたため、その後も目標値を大きく上回る来場者数を記録したと考えられる。	令和8年4月
										なし			
	指標2	大友氏遺跡の整備に対する期待度の向上	%	38.10%	H27	50%	R7		35.6%(R7)	△	あり	目標値には達成していないものの、R2の調査時34.3%よりも上昇している。また、「期待しない」の割合が14.8%から11.4%と減少しているため、一定の期待感が醸成されていることが確認できる。目標に至らなかった要因としては、大友氏遺跡歴史公園の今後の整備内容に関するPRが十分でなかったことや、情報発信が当初想定していたほど期待度の向上に結びつかなかったことが考えられる。	－
										なし	●		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	南蜜BVNGO交流館における市外からの来訪者の割合	%	24.9	R2				30.2(R6)			整備の進捗や多様なイベントの開催により、市外からの来館者の割合が増加しており、特に歴史に関心のある人に対して歴史文化観光拠点としての魅力が高まっていると考えられる。	－
	その他の数値指標2	南蜜BVNGO交流館職員による出前講座回数	回	7	R1				12(R6)			近年10校以上へ出前講座を実施しており、地域の歴史や文化の魅力を若年層へ伝えることで、次世代への郷土理解と文化継承の促進や人材育成にも寄与していると考えられる。	－
4)定性的な効果発現状況	・来場者アンケートでは83%が今後の整備に期待できると回答している。家族連れや子どもの来訪が増加傾向にあり、県外・国外からの来訪もみられ、歴史文化観光拠点としての機能を果たしているほか、ウォーキングコースとして地域住民の憩いの場にもなっている。												
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング		－		都市再生整備計画に記載し、実施できた								
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	官民連携による取組		・市民へアンケートの実施		都市再生整備計画に記載し、実施できた								
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●				
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	持続的なまちづくり体制の構築		・大友氏遺跡を整備活用するための組織づくり ・FUNAIジュニアガイドの育成 ・大友氏遺跡史跡ボランティアガイドの育成		都市再生整備計画に記載し、実施できた								
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●				
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				・整備活用に対し意見や助言を求めるため、検討委員会の定期的な開催を予定 ・ジュニアガイドの育成を通じて、大分の未来を担う次世代の人材育成を推進する ・史跡ボランティアガイドによる来訪者への案内活動を通じて、遺跡の正しい理解と魅力を伝える。				

様式2-2 地区の概要

大友氏遺跡歴史公園周辺地区（大分県大分市）都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：歴史と文化を活かした魅力ある新しい大分の発展に向けたまちづくり 目標1：大友氏遺跡を核とした歴史・文化施設の基盤整備を進める 目標2：国指定史跡大友氏遺跡の歴史文化資源を活かしたにぎわいと人の交流をうむ拠点を形成する 目標3：地域資源を活かす人材の育成を行い、歴史文化情報発信を行うほか、歴史文化資源の顕在化により幅広い層に認知度向上を図る		大友氏遺跡への来場者数	単位：人/年	18,820人	R1	24,000人	R7	39,927人	R6
		大友氏遺跡の整備に対する期待度の向上	単位：%	38.10%	H27	50%	R7	35.63%	R7
<div><div>■ 基幹事業 地域生活基盤施設 【大友氏遺跡周辺史跡案内サイン整備】</div><div>■ 基幹事業 地域生活基盤施設 【大友氏遺跡歴史公園基盤整備】</div></div> <div><div>凡例</div><div><div>■ 基幹事業</div><div>■ 提案事業</div><div>■ 関連事業</div><div>— 事業範囲</div><div>--- 都市機能誘導区域</div><div>--- 居住推奨区域（居住誘導区域）</div></div></div>									
		■ 提案事業 地域創造支援事業 大友氏遺跡国史跡指定20周年記念イベント							
		■ 提案事業 地域創造支援事業 大友氏遺跡歴史体験事業							
		■ 提案事業 地域創造支援事業 歴史文化まちの魅力向上事業							
		■ 関連事業 大友氏遺跡保存整備事業 【大友氏館跡庭園整備】							
		■ 提案事業 事業活用調査 【事業効果分析調査】							

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none">・歴史文化観光拠点整備の推進 大友氏遺跡整備は現在も進行中であり、中長期的な整備計画に基づき、引き続き広場や拠点の整備を推進し、歴史・文化観光の拠点としての機能を充実させることが必要である。・大友氏遺跡歴史公園の賑わいを地域全体へ波及 整備の進捗や各種イベントにより生まれた新たな賑わいや、大友氏遺跡歴史公園周辺の回遊性の向上などをうけて、中心市街地まで、その効果を波及させる必要がある。・大友氏遺跡歴史公園整備への期待度の醸成 教育現場との連携を図り、次世代による郷土の歴史文化への理解が進むなかで、幅広い層に対して、歴史・文化資源の価値を十分に認識してもらうため、大友氏遺跡歴史公園整備への期待度の更なる醸成が必要である。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<p>「南甕文化発祥都市おおいた」としてまちづくりの推進</p> <p>方策1：歴史公園整備の更なる推進 大友氏遺跡を歴史・文化観光拠点として資する歴史公園となるように、歴史文化資源を含めた来訪者への効果的な情報発信や、県外への広報・PRをする。さらに、デジタルを用いた空間体験の整備、中心建物の復元等の公園整備を推進し、誰がいつ訪れても楽しめ、多目的に利用できる緑と文化が感じられる集いの場となる空間の形成を図る。</p> <p>方策2：歴史文化資源のネットワーク化と賑わいの創出 中心市街地の東西連携を図る線路敷ボードウォーク広場や歴史的な記念碑のある遊歩公園や府内のまちなあたの中島錦町線等を活用し、府内城跡等の市内の歴史文化資源とのネットワーク化を図ることで、地域内の回遊性と滞留性を向上させて、新たな賑わいの創出を図る。さらに、県内の大友氏遺跡との広域的な連携を強化し、県全体での観光・交流の促進を目指す。</p> <p>方策3：歴史・文化資源の価値の顕在化 学校教育や生涯学習との連携を通じて、大分の歴史や文化を継承、郷土への誇りや愛着の醸成を更に促進させていくとともに、幅広い層へ適切な情報発信を行い、歴史・文化資源の価値の顕在化を図る。</p>